

開催地名：静岡県沼津市	
開催日時	令和5年2月16日(木) 19:00 ~ 20:30
開催場所	プラサヴェルデ(コンベンションぬまづ)
語り部	宮本 英一 (千葉県旭市)
参加者	沼津市防災指導員、沼津市各連合自治会会長 30名
開催経緯	<p>当市では、南海トラフ地震による被害が想定されており、市民の防災意識の高揚、自主防災組織の育成等防災対策の推進を図るため、防災指導員を市内28ある連合自治会から推薦を受け任命している。南海トラフ地震が発生した場合に想定される被害は、各連合自治会がある地域によりさまざまであり、居住地域の防災上の課題を検討して災害に備える必要がある。</p> <p>一方で、当市では大規模地震の被災経験がなく、自主防災組織の活動、避難誘導、避難所の運営の検討などが課題となっている。</p>
内容	<p>(1) はじめに</p> <p>私の住む千葉県旭市は、平成17年7月に、旭市、飯岡町、海上町、干潟町が合併してできた市である。人口は66,500人程度の農業と漁業の市で、醤油と漁業で有名な銚子市の隣に立地する。</p> <p>津波で亡くなった方々や行方不明者の多くは、一度目の堤防を越えた津波が来た時には避難していて、もうこれで終わりだと思って家に帰ってしまい、二度目の堤防を越えた津波で流された方々が殆どである。津波の到達距離は海岸線から200メートルから300メートルで、旭市全体が津波に襲われたわけではない。従って、震源地である東北地方で起きた津波とはその規模や被害の大きさについては比べようがないが、震源地から遠い千葉県でも津波による大きな被害があったことを、是非知っていただければと思う。</p> <p>(2) 津波襲来</p> <p>地震発生後、近所の人たちは荷物を持って、区民館や近くの神社に避難していった。私は、「津波は家の前の堤防を越えることはないだろう」と思いながら、特に避難せずに、庭に立って海を見ていた。この日まで「津波警報」や「津波注意報」が数え切れない程発令されたが、大抵は数十センチ海水面が上がる程度だったこと、そして千葉県の九十九里浜は、リアス式の海岸と違って広い海岸なので、大きな津波は来ないと思い込んでいたことによる。</p> <p>そして津波は地震発生から約1時間後に来たが、私の予想通り、家の前の堤防は越えなかった。避難していた住民は安心して自宅に戻り、片づけを行っていた。海岸では、潮がかなり沖合まで引いている状況が継続する中で、第一波から1時間半後に第二波が沿岸部を襲った。防災無線では「大津波警報、緊急避難、緊急避難、団長命令」という放送が、何度も流れていた。これは、消防団員に対しての放送で、団員も危険だから緊急避難をするよという指示だった。私たちは玄関の前に立ちながらその放送を聴いて、ただごとではないと思い、避難しようとしたが、あっという間に津波の激しい流れに巻き込まれて、水の中に沈んでいった。水を飲みながら浮き上がると、屋根の上に乗って何とか助かった。</p>

(3) 震災での気づき

飯岡地区での津波の被害は、海沿いの数百メートルの地域に限定しており、それ以外の地域ではほとんど被害がなかったとはいえ、避難所は 10 か所開設されて、2,863 人の市民が避難し、3 日後の 3 月 14 日に 4 か所に統合された。その 4 か所の避難所には、津波や土地の液状化などにより自宅に住めなくなった住民が残り、仮設住宅に入居するまで 73 日間続いた。その一方で、通常の生活が可能な住民も多く存在し、区長として難しい対応に迫られた。

避難所での生活でも問題点は多かった。最も困ったのはトイレの問題である。消防団が簡易防火水槽を設置し、避難所従事者が、トイレにバケツで水を汲み置きしたが、それでもトイレが汚物だらけになった。停電や断水が発生しても、トイレだけは使えるような避難所の整備が必要である。

また、被害を受けた地域には多くのボランティアの方々が来てくれたが、申請や受付、保険加入手続きや作業現場への移動等に時間を割かれることで作業時間が限定されてしまい、せっかくの好意を必ずしも適切に受けることができなかったと言える。

災害は、人と場所を選ばず、突然やってくる。あの時津波に流されて一番反省している点は、大津波警報が出ても、自分だけは大丈夫と思い、避難しなかったことである。また、津波は繰り返しやって来る。「自分の命は自分で守らなければ」と強く思った。

ここにいる皆さんは、災害が起きた時はそれぞれの役割を果たされると思うが、皆さんや、皆さんのご家族が被災しないとは限らない。万が一そうなった場合、自分の家族を守りながら、地域のためにどういった行動をとるべきか、日頃から考えておく必要があると思う。



開催地より

被災体験に基づく貴重なお話を、大変興味深く受講することができ、防災意識の啓発に役立ったと感じた。災害がもたらす被災者の苦勞、共助の重要性や行政との緊密な連携の必要性などについて考えさせられた。平素からの災害に対する備えやルール作り、良好なコミュニティ環境の重要性について考えていく必要を感じた。